

# 老健たより

F第2号



午後のレクリエーションのひとときです

明るい笑顔、大事にしたいです。

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 老人保健施設 開設一周年を迎えて  | ②   |
| 雑感                | ②   |
| 1周年記念行事 H 5.11.10 | ③   |
| 第1回老人保健施設研究発表会    | ④   |
| 老健施設への期待          | ⑤   |
| 在宅ケア部のご紹介         | ⑥・⑦ |
| お知らせ 紹介           | ⑧   |

**老人保健施設  
開設一周年を迎えて**



施設長  
谷

尚

但馬地方には特別養護老人ホームがすでに十ヶ所もありますが、老人保健施設は当施設のみです。老人保健施設と特別養護老人ホームはどう違うのか、未だ地域住民に充分御理解を得てないものではないかと痛感しております。もつとPRが必要だと思います。この一年間に御利用いただいた方は四〇六名に達しました。

この内訳は男一六一名、女二四五名で平均年令八〇、六才。入所目的は介護疲れや、

利用者は八鹿町が一三四名（三三%）で断然多く、ついているのは、感染症のことです。B型やC型肝炎もあります。町と県外からの入所者です。入所者で一番問題になるのはどの福祉施設でも痴呆のことです。軽度の痴呆までいれると六〇%をこえますが、当施設では問題になつたのは七名です。その内容は重複しますが徘徊四十、無断離所四十、放尿十、物取り五となりその他大声や奇声を出す人など様々です。

リハビリであります。理学療訓練や四肢の運動に頑張つていますが、入所時より車椅子の生活の方を中心に作業療法を取りくみましたが、対象者が多いことと、案外、高齢者には作業療法が不可欠のように思われました。

ここに入所されているんだなあということを実感するようになりました。

高齢化社会が声高に呼ばれる老人問題が社会の問題としてクローズアップされてきていてます。確かに、今までの日本では、子供は大切なものとして手厚い保護が行われてきました。レストランのお子さまランチ、子どもの絵本、子供の歌、児童公園、小児科医、保育園……等々。みんな子供に未来への夢を託し、いろいろと考えてきたのでしょうか。

はあまりに長くなりました。もつと一人一人が自分自身の問題として、老いるということはどういうことなのか、老年期の幸せとはなんだろうかということについて考えてみたらどうでしょう。子供に対して考えるのと同じ熱心さで。。。そこから本当の老人福祉が始まるとと思うのです。

でもそういう心の問題を大切にし、快い療養に向けて私らしさを大切にしながら、一人一人の老人とつきあつてきたいと思います。

公立八鹿病院老人保健施設  
を病院併設型で開設して、一周年を迎えました。昨年十一月十日竣工式を行つてスタートしましたが、何分始めての経験であり不安と緊張の連続でありましたが、何とか軌道にのつてしまひました。

家庭の事情の方が二〇六名（五〇%）次にリハビリ目的が一五六名（三八%）でこの二つで九〇%近くなります。又自宅から入所された方が二四七名（六一%）、八鹿病院から一一四名（二八%）です。

ますがMRSAの取扱いで、当施設も一年間に七名のMRSA陽性者を収容しました。当施設は開設一年ですし、抗生素質を使用して治療もしておりますので、全員外部からもちこまれたものであります。殆どの福祉施設ではMRSA陽性者は入所を断られ

老健がスタートして一年半  
毎日直面することがすべて初



主任  
旗谷多季子

一方老人には何があるのでしよう。ゲートボール？確かに老人ホームはあちこちに整備されて来ています。でも老人の心の問題はどうなのでしょう。心安らかに老後を楽しむということはどういうこと

# 1周年記念行事 H.5.11.10

～芸能集団「バラエティ」を迎えて～

## 保育園児の友愛訪問

続きましては、童和保育園の可愛い園児30名により、歌、楽器演奏、そして踊りを披露していただきました。



## オープニングセレモニー



去る平成5年11月11日。一周年記念行事を開催しました。まずは、施設長より皆様方に一言ご挨拶を申し上げました。オープニングセレモニーとしてふさわしく、コーラスグループ「みやび」の皆様の歌声がホールに響きわたりました。

## 落語家の激励訪問



テレビ、ラジオにご活躍中の芸能集団「バラエティ」の方々の登場で、会場は、よりいっそう、わき上がりりました。大変ご多忙にもかかわらず、来ていただきました。

河辺夾一氏の司会によりまして、桂 文福さん、笑福亭学光さん、桂 勢朝さんの楽しい落語が進行されました。会場は、笑いと拍手の渦につつまれていました。

## つるの会の舞踊

この日のしめくくりは、「つるの会」のみなさんでした。最高年令の方は80才ということです。



## 介護教室



▲真剎なまなざしが印象的でした。



▲大盛況で、スタッフも大ハリキリ。



一階では、作品展、介護機器用品の展示、相談のコーナー。介護教室の開催を行いました。

作品展では、利用者の方々がレクリエーションの中で成作した作品の数々を展示し、日頃の成果を、披露しました。

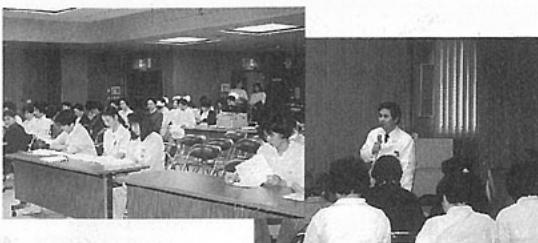
玄関前においては、ボランティアグループ「のぎくの会」の皆様の協力を得ながら、わきあいあいの模擬店を開きました。訪れたお客様達も、きっと満足されたのではないでしょうか。

ご協力いただきまして  
ありがとうございました

ありがとうございました

ご協力いただきまして  
ありがとうございました  
一年周年記念行事を開催する  
にあたり、地域の皆様をはじめ、各種団体の皆様のあたたかいご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。また、八鹿病院のスタッフの方々、老健内、日清医療食品の方々にもご協力いただきましたこと大変感謝しています。ありがとうございます。  
た。  
た。  
ます。  
ます。  
お願いします。  
今後とも、どうぞよろしく

## 第一回老人保健施設研究発表会 (平成5年11月29日)

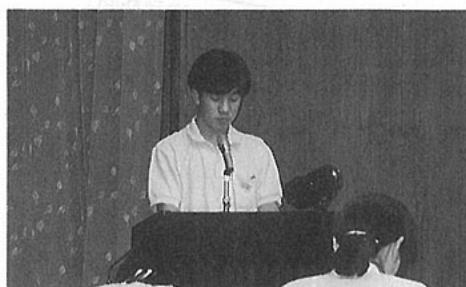


- 老健入所中の痴呆の方への対応について  
老人保健施設3F介護職員  
○日野照彦・谷垣みづこ・大垣弘子・片岡みどり  
小野山恵子・宮谷すえの・石田美幸
- 当施設の排泄介助の現状と問題点について  
老健介護福祉士  
○井上勝代・高田佑三子・三方美登里・藤田雅子  
細田真紀・田村美佐子・小橋誠・守本恵子
- 事故報告書からみた一年間の転落転倒事故のまとめ  
老健2F看護婦  
○内田由美・山本初音・田中多佳子・旗谷多香子
- 老健に於ける内服管理及び与薬の改善を試みて  
老健3F看護婦  
○日下部富江・石田逸子・長瀬勝利・西谷春子
- 効果的な午後のレクレーションを考えて  
老健2F介護職員  
○稻津幸子・藤原二栄・北垣和代・田公貴子  
森本やす子・中平美香
- 八鹿病院老健施設に於ける  
リハビリテーションと問題点について  
理学診療科 田原重穂
- 老人保健施設デイ・ケアについて  
老健事務  
○田村充・本谷国雄・内田美穂・内田直美
- 訪問対象者における老人保健施設利用の有効性  
……アンケート調査の結果から……  
在宅ケア一部  
○朝日英美・小谷千万里・吉田香・谷口さち代  
今北明美・谷岡ますみ・田和和子・沖田寛  
伊沢けい子

# 第1回 老人保健施設 研究発表会

第一回老人保健施設、研究発表会が、平成5年11月29日に、一周年記念行事の一環として行われました。公立八鹿病院神経内科医長近藤清彦医師を座長として、進行されました。

開設して一年と、短い期間ではありますが、今までの業務を振り返り、より良いケアにつなげていきたいという、全スタッフの熱い思いが伝わる発表会でした。



介護職員 日野照彦

## 老健入所中の痴呆の方への対応について

方  
法

しました。

平成4年8月1日から平成5年10月25日までの3階の入所者23名に長谷川式簡易知能評価スケールを用い、痴呆の程度と問題行動を調査し、事例を通して痴呆の方への関わり方を学びました。

目的

入所者のほとんどが、介助、介護を要する高齢者であり、問題行動のある痴呆のある方も数多く見られます。痴呆のある方にはその人の病状やレベルに合わせて対応していくかねばなりませんが、充分把握できず介護していることが多くあります。

一年のふりかえりとして、痴呆の方への関わり方を検討

結果

長谷川式スケールでは、30点満点中、痴呆の境界とされる人10人、その他12人でした。長谷川式スケールでは、80才代が圧倒的に多く、病気別では老人性痴呆11人、脳梗塞の人10人、その他24人、20点以上が20点までが24人、20点以上が9人でした。

問題行動では、大声を出す人が一番多く、徘徊、放尿、物をとる等が多くありました。痴呆の人には本人のこれまでの生活や程度をよく理解し、本人を尊重して接していくかなければならぬという結果となりました。

## 当施設の排泄介助の現状と問題点について



介護福祉士 井上 勝代

か統計をとり研究していくました。

意義があると再認識することができます。

高齢化社会に伴い、老人の排泄問題は様々な面から取り上げられてきました。当施設内でも何等かの原因で尿失禁によるオシメ使用者がいます。

定時的に行っているオシメ交換は業務上、欠かせないものであるが、時には安眠妨害になり、日中のADLの影響を及ぼします。さらに、精神的な苦痛から離床困難も招かねられません。

これからをふまえ、苦痛から和らげることができないの

方法  
 (1)オシメ交換の時間帯別排尿有無チェック  
 (2)吸収状態から見る排尿量チェック  
 (3)夜間時の排尿量チェック  
 (4)当施設使用オシメと他社との比較

### 目的

高齢化社会に伴い、老人の排泄問題は様々な面から取り上げられてきました。当施設

は、介護することにどれ程気を使い、また自立できた事が嬉しい事であるからも、よく分かる事である。多忙な業務の中で多面的に問題視し、チェックする事は困難であり、職員の一丸となつた方針と姿勢が求められることでもあります。

今後、老人保健施設職員として役割を果たしていく為にも今回の調査が無意味に終わらないよう、生かしていくかなればならないと考えています。



## 効果的な午後のしクリエーションを考えて



介護職員 稲津 幸子

を楽しみながら行うための対策について検討しました。

老人保健施設が開設され私たち介護職員が介護に携わる月日もはや一年がたとうとしています。開設前に私たちは一ヶ月の研修を受け、そのなかでレクリエーションを繰り返し行うことで入所者及び職員ともにマンネリ化の感じを受けていたことに気がつきました。そこで特にマンネリ化した。そこで特にマンネリ化の感じを受けていることに気がつきました。

このように自分のしたい事をみんなと一緒に出来るようにした。出席者や、点数表を作りグループ対抗とする等の状況に合わせ楽しめるようにしました。

### 目的

老人保健施設が開設され私たち介護職員が介護に携わる月日もはや一年がたとうとしています。開設前に私たちは一ヶ月の研修を受け、そのなかでレクリエーションを繰り

方法及び結果  
 レクリエーションの参加は自由参加とし、人数が多くても出来ず、退屈することのないような内容のものとし、又職員の数が少くとも日配りや指導が出来やすいものを考えました。

(1)立ち上がり練習  
 (2)輪投げ  
 (3)ゲートボール  
 (4)散歩  
 (5)ボール投げや歌のコーナーを作りその日の出席者の状況に合わせ楽しめるようにしました。

このように自分のしたい事をみんなと一緒に出来るようにした。出席者や、点数表を作りグループ対抗とする等の状況に合わせ楽しめるようにしました。

## 老健施設への期待



公立八鹿病院  
神経内科 医長  
**近藤 清彦**

それ以後、本人や家族の方の病状への不安は軽くなりましたが、毎日続く介護疲れを軽減させることはできませんでした。

「老人ホームへ入所させず

自宅で介護していきたいが、

これ以上自宅での介護を続けると自分が倒れてしま

う」といったジレンマに悩まされた方も少なくなかつたよう

十三年に始まりました。

当院の老健施設が開設され、

はや一年あまりが過ぎました。老健施設は老人病院でもなく、老人ホームでもない中間

的な新たな施設として昭和六

施設にまかされていると言つても過言ではないようです。

全国の老健施設の状況を見ても、その施設のめざすものや運営のしかたはまちまちで、老健施設の内容の多くはその

**在宅支援**

当院では十年前から在宅ケアが始まり、障害をもつて病院を退院した患者さんが自宅

で安心して暮らせるようにと医師や看護婦が自宅へ訪問し

ました。



一時あずかって世話をさせ

ていただくという、介護者を

助ける役割（在宅支援）に加

但馬は全国に先駆けて高齢化が進んでおり、日本でこれは本人のリハビリです。

えてもうひとつ重要な役割は、リハビリという言葉は、狭い意味では機能訓練をさしますが、ここで言うリハビリはもっと広く、機能を維持する

ことや日常生活に目標や生きがいをもつてもらうこともさしています。

老健施設では、理学療法士や作業療法士の指導を受ける一方、広いホールを利用してなるべく起きていること、なるべく歩くことを目標にし、運動不足による機能低下を防いでいます。

それに加え、気持ちを明るく持つてもらうことが重要です。その結果、高齢化先進地における老健施設として、大きな責任や期待がかけられています。

八鹿病院の老健施設には、高齢化先進地における老健施設として、大きな責任や期待がかけられています。

高齢化先進地における老健施設として、大きな責任や期待がかけられています。

八鹿病院では、平成五年から、病院訪問看護部と在宅介護支援センター、南但訪問看護センターをまとめて「在宅ケア部」と称し、老人保健施設とも連携を取りながら、よりきめ細かい在宅ケアが行なえます。

この「心のリハビリ」は老健施設のかくされた大きな役割だと思います。

行います。

在宅ケア部

近藤 清彦医長

### 在宅ケア部より

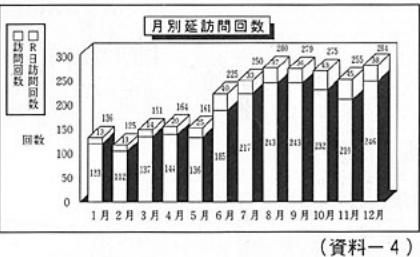
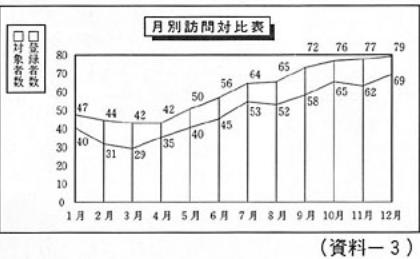
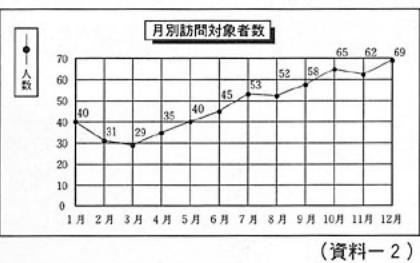
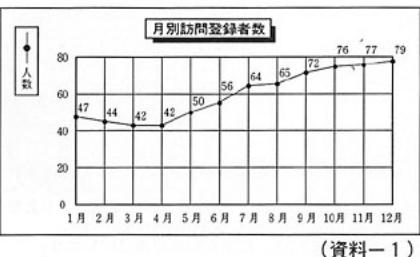
在宅ケア部婦長 伊澤けい子



在宅ケア部メンバー

南但訪問看護センター管理者  
伊澤けい子婦長  
谷岡ますみ  
谷口さち代  
朝日英美  
今北明美  
病院訪問看護部担当  
小谷千万里  
田和和子  
在宅介護支援センター担当  
吉田香  
小谷千万里  
沖田寛  
訪問リハビリ担当  
田原邦明  
以上メンバードで頑張つて  
います。

## 平成五年一月～十二月迄の患者数と延訪問数



## 在宅ケア部と老人保健施設との関わり

在宅ケア部では、平成5年11月1日現在77人の訪問登録者数を受け持つおり、その内31人が、老人保健施設（以下老健と略す）でのデイケア・短期入所・長期入所のいずれかを利用しています。これら老健利用経験のある介護人へのアンケート調査を実施し、その実態をまとめました。患者の平均年令は76・7才、自立度はB及びCランクの寝たきりが96%を占めています。介護者の平均年令は、60才で健康状態では不安がある、又は、病気がちと答えた者が48%でした。身体病状では、

疲労感・腕・肩・腰の痛み・睡眠不足・苛立ち感等の不調を自覚していました。老健利用の良い点として

①入浴により清潔になった。

②介護者の休息がとれ、用事ができた。

③患者の表情が良くなつた。

等があげられました。これらより、老健を利用する事で、患者、介護者ともに気分転換がはかられ、介護者の身体的負担の軽減につながりました。又冠婚葬祭などの急用時に、老健が利用できた事は、患者及び介護者の社会性の保持につながつたと考えられました。

在宅ケアを可能にするには訪問看護を、はじめとして、デイケア・ショートステイ等

の短期入所サービス、更に、中間施設としての老健の利用などのがん福祉サービスぬきでは考えられません。

今後、増え、在宅ケアへの期待は、たかまつてきます。

在宅ケア部としまして、各

関係機関との連携をとりながら、患者、家族の方々が、安心して地域の中で生活ができるような支援を行なつていきたいと考えております。

さいごになりましたが、ア

ンケート調査に御協力下さった方々にこの場をおかりしまして深く感謝致します。

ありがとうございました。

会場

1周年記念行事のなかで、在宅ケア部の紹介の展示



# 行事紹介

## 11月29日 老健研究発表会

毎日ケアの中で生まれるさまざまな問題に取り組みその成果を力強く発表しました。



## 12月22日 クリスマス会



## 10月8日 看護学校学校祭



## 9月22日 敬老会



▲始まります。『祝、敬老会、さてどんな余興がお出でやら…。お楽しみ。』

◀宿南保育所の子どもたち。ステキなネックレス、暖かい握手ありがとうございます。うちの孫はどうしているだろうなー。

## 2月9日 七宝焼

酒先生の指導のもと七宝焼をしました。



▲真剣なまなざしで、七宝焼に初めて挑戦してみました。

## 10月13日 秋の味覚会



▲戦時中は、よう芋食べましたな。『そうですね……。』語るお二人さんおいしそう。

◀焼芋のおいしさに『何個食べた。』2個。語る二人あとは、臭いなかかも……。

## 1月12日 新年会

おとそが入って一うなり。職員もおもわずのせられて……



▲入所最高齢96才のおばあちゃん。じまんのどで歌ううた、またこれまためでたい『おまえ百まで、わしゃ99までよ……。』

## 2月23日 小佐保育所慰問



## 10月7日 広谷小学校慰問

## 3月2日 ひな祭り

おひなさまをかこんでハイ、チーズ。



## 2月2日 分節

日々の生活に追われる毎日の中で、大切な人、大切な事が、一つ、また一つ、見失われていったのではないでしょうか。そもそも桜の便りも聞かれ始めました。とても懐しく、優しい気持ちを感じました。

ふと、近所の畑に目を向けた時、雪は消え、ふきのとうが、黄色い花を優しく咲かせ春の訪れを告げていました。

審査の結果『老健だより』に決定しました。

### 編集後記

◎標題が決まりました  
創刊号において、標題を募集しましたところ、応募をいただきありがとうございました。

さりとて、『老健だより』に決定しました。

小島 道代（介護福祉士）  
長女 梨沙 5・10・15  
細田 真紀（介護福祉士）  
旧姓（成田） 5・11・1  
出産

|             |         |
|-------------|---------|
| 森垣 孝夫（介護職員） | 5・10・10 |
| 内田 由美（看護婦）  | 5・12・30 |
| 昇任          |         |
| 旗谷多香子（看護婦）  | 6・1・1   |
| 結婚          |         |

### スタッフのつづき